

射水市DXビジョン

射水市DXはLX(生活スタイル変革)



射水市

目次

01	DXビジョン策定の背景 1 社会的背景 / 国の動き
02	DXビジョンの位置づけ 2 目的 / 対象者 / 期間
03	DX推進体制 2
04	DXで目指す未来の姿 3 キャッチコピー / 実現イメージ
05	DXで目指す5つのシーン ① 地域振興会と自治会で「つながる地域生活」 4 ② 「家族がつながる」幸せ射水ライフ 5 ③ 100歳まで「社会とつながる」安心と健康 5 ④ 自動化と思いやりで「つながる地域交通」 6 ⑤ 地域を支える「サービスがつながる」効率社会 6
06	市役所のDX 7
07	DX推進に向けて 7 デジタルが苦手な方のために / 安心して参加できるように

01 / DXビジョン策定の背景

社会的背景

少子高齢化の波は、生産年齢人口の減少に伴う労働力の減少や消費需要の減少による経済活動の減退のほか、社会保障費の増嵩や地域活力の低下など、社会の様々な面で影響を与えることが懸念されています。

また、未婚化・晩婚化の影響や経済格差の拡大などといった社会環境の変化に伴い個人の価値観やライフスタイルはますます多様化しています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、これまでの生活スタイルが大きく変化するなど、社会や経済に深刻な影響を与えています。

こうした中、急速に進化するデジタル技術を活用し、様々な社会課題の解決や新たな価値の創造につなげるDXの取組が注目されています。

国の動き

国においては、行政のデジタル化の集中改革を強力に推進するため、マイナンバー制度と国・地方を通じたデジタル基盤の在り方を含め、抜本的な改善を図ることとされ、地方公共団体における情報システム等の共同利用の推進や地方公共団体の行政手続のオンライン化の推進等を盛り込んだ『デジタル・ガバメント実行計画』（令和2年12月25日閣議決定）が定められました。

また、併せて、この実行計画において、自治体が重点的に取り組むべき事項・内容を示した『自治体DX推進計画』（総務省、令和2年12月25日）も策定されています。

国の自治体DX推進計画に定められた取組事項

重点取組事項

- 自治体の情報システムの標準化・共通化
- マイナンバーカードの普及促進
- 行政手続のオンライン化
- AI・RPAの利用推進
- テレワークの推進
- セキュリティ対策の徹底

その他取組事項

- 地域社会のデジタル化
- デジタルデバイド対策

※DX (Digital Transformation) : ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること

※AI (Artificial Intelligence) : 人工知能

※RPA (Robotic Process Automation) : パソコンを操作して行う作業を自動化するソフトウェアロボット

02 / DXビジョンの位置づけ

目的 産（民間企業）、学（研究機関）、官（市・県・国）、民（市民）が連携し共通認識を持ちながら、地域課題の解決に向けたDXの活用により、将来にわたって活力に満ち、市民が夢と希望を持てる射水市の実現を加速させるため、本市のDX推進に係る体制、戦略等を示したものです。射水市の潜在力を引き出し、全国の地方都市のモデルを目指し、挑戦します。

対象者 全ての市民及び関係する企業（法人・個人を問わず）とします。

期間 国の自治体DX推進計画と同期間とし、令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までの5年間とします。令和7年度の未来を想像し、ゴールを示しながらも、社会経済情勢や国の動向、情報通信技術の進展を踏まえ、適宜見直しを行います。

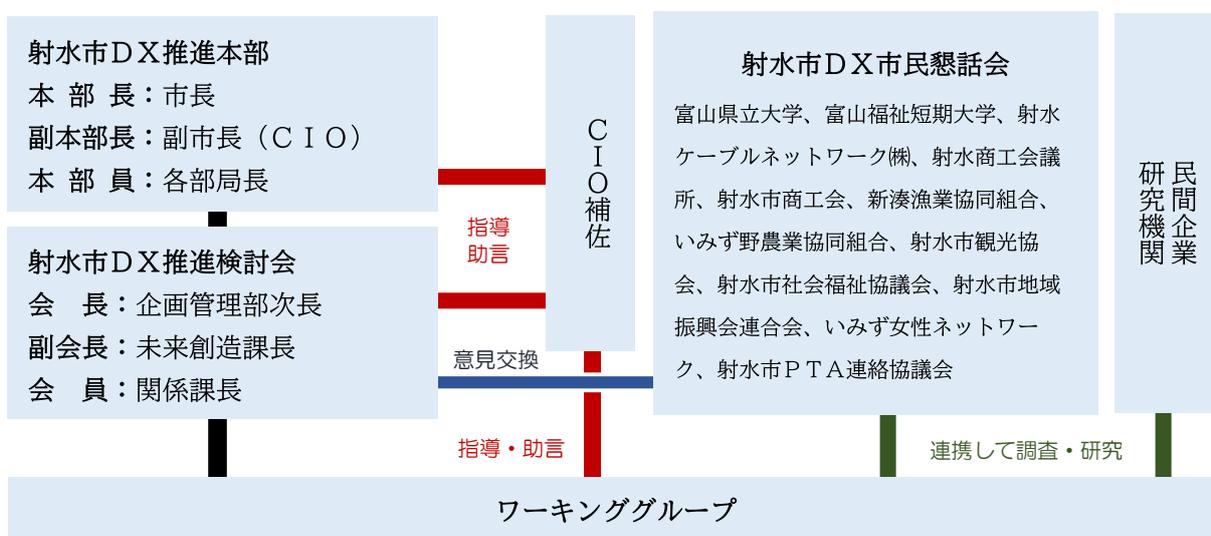
03 / DX推進体制

本市のDX推進事業を迅速かつ的確に実行するため、市長を本部長とするDX推進本部を設置し、DX推進に関する全体方針の決定や必要な事項の審議を行います。

また、関係課長で構成するDX推進検討会を設置し、部署を横断してDXに関する具体的な検討を行うとともに、検討会に付議すべき事項の調査・研究を行うワーキンググループを必要に応じ設置します。

さらには、各種団体で構成する市民懇話会を開催し、幅広く意見を聴取します。

射水市DX推進体制図



※CIO（Chief Information Officer）：情報統括責任者

04 / DXで目指す未来の姿

キャッチコピー

射水市DXはLX 生活スタイル変革 (Lifestyle Transformation)

● 市内を社会実装に向けた実証の場とすることにより、先端的なデジタル技術を活用し「全ての人がつながる地域コミュニティの醸成」や「所有するから必要な時だけ利用することに発想転換した生活コストの見直し」、「都市からの距離をなくすことにより地方への流れをつかみ」、多くの人が集い、交流し、あらゆるライフステージで幸せを実感できる社会の実現に取り組みます。

● 実現イメージ（ゴール）



※未来の姿を想像（イメージ）したもので、今後関係機関との協議・調整が必要です。

05 / DXで目指す5つのシーン

本市が目指す令和7年度（2025年度）の未来に向けて、次の「つながる」をキーワードにした5つのシーンの実現に向けて取り組みます。

5つのシーン

- ① 地域振興会と自治会で「つながる地域生活」
- ② 「家族がつながる」幸せ射水ライフ
- ③ 100歳まで「社会とつながる」安心と健康
- ④ 自動化と思いやりで「つながる地域交通」
- ⑤ 地域を支える「サービスがつながる」効率社会

① 地域振興会と自治会で「つながる地域生活」

一人ひとりの希望が反映できる地域コミュニティとDXによる生活基盤

課題

高齢化に加え、価値観やライフスタイルの多様化により、自治会の運営が難しくなっています。また、コロナ禍にあつて、交流の機会が制限されるなど、人間関係の希薄化が進んでいます。

一方で、災害対応能力を維持向上するためには、地域コミュニティが大きな役割を果たすことから、人のつながりが重要となっています。

対応

全ての人が生活の基盤である地域とつながり、必要な情報を受け取ることができる体制の構築を目指します。DXを活用し、日常の連絡から非常時の安否確認など、自治会活動の負担軽減と地域のコミュニティ力の向上を図ります。

また、スマートフォンなどのデジタル機器の操作が難しい方でもできるだけ分かりやすく使える仕組みを整えます。

想定される事業

- 電子自治会アプリの導入
- デジタル機器操作教室の開催



② 「家族がつながる」幸せ射水ライフ

拡大射水市民を誘う住む魅力 モデルゾーンの設定と子育て・仕事・成長・文化

課題

人口減少が進む中、人や自然、文化に育まれた射水の魅力を生かし、多くの人が集い、交流し、笑顔があふれ幸せを実感できる場づくりが重要となっています。

生活の拠点となる住宅については、持ち家率も高く、住宅に関する支出も所得の多くを占めています。また、高齢者の方々が、安心して暮らせることは、本人だけでなく子や孫などの家族にとっても大きな関心事であり、課題となっています。

対応

リモートワークにより都市部の仕事を地元に戻って継続したり、都市部の企業がリモート雇用により有能な人材とマッチングしたり、ワーケーションや観光を目的に多くの方が訪れてもらえる環境を整えます。

また、家族が離れていても一緒に暮らしを楽しむことができるよう、あらゆるライフステージで幸せを実感できる社会を目指します。

想定される事業

- 持つから利用するに発想転換する住空間（シェア住宅）の整備
- 高齢者等が安心して暮らせる高品質な住宅の整備
- ビジネスに交流を促すサテライトオフィスの整備
- スマート保育・スマートスクールの推進
- 個人IDを活用した市有施設の利用



③ 100歳まで「社会とつながる」安心と健康

心身ともに健康で最後まで人生を楽しむ 日常の健康管理ともしもの備え

課題

医療費と介護保険給付費等の増嵩により、生産年齢世代で高齢者世代を支える負担が増加しています。また、人口減少による労働力不足も深刻な課題になっています。

対応

ウェアラブル端末等により取得した毎日の健康情報等のビッグデータを蓄積し、分析した成果を社会に還元するなど、ライフサイエンスの研究により、健康寿命の延伸を図ります。また、心身の健康を維持し、生涯にわたり活躍し続けられる社会を目指します。

想定される事業

- データに基づいた健康管理や最適措置（AIモニタリング）
- 地域見守りサービス
- オンライン健康指導
- 障がい者雇用支援



※拡大射水市民：射水市と多様に関わりのある人々

※ワーケーション：観光地やリゾート地で、働きながら休暇をとる過ごし方

※サテライトオフィス：本社や本部から離れた所に設置されたオフィス

※ウェアラブル端末：手首や腕、頭などに装着する情報端末（例：腕時計型情報端末（スマートウォッチ））

④ 自動化と思いやりで「つながる地域交通」

自家用車を運転しなくても生活できる地域で支える便利な交通連携

課題

来訪者や高齢者、学生等の移動手段を確保するための公共交通の維持充実が重要です。また、カーボンニュートラルの実現に向けて過度に自家用車に依存しないライフスタイルの実現や新たなデジタル技術の活用などによる運行の効率化、担い手不足による運転手の確保などが課題となっています。

対応

カーシェアリングの導入や自動運転、オンデマンド公共交通などにより、自家用車を所有・運転しなくても生活できる便利な地域交通を目指します。

一方、環境負荷の点からも、「モノ」を所有する時代から、共有して大切に利用する発想への転換等により、脱炭素社会を目指します。

想定される事業

- 自動運転によるオンデマンド型交通
- カーシェアリング／シェアサイクル
- 有償ボランティアによる送迎
- 大規模長距離バスターミナルの整備
- 自動運転貨物の拠点の整備



⑤ 地域を支える「サービスがつながる」効率社会

LXを実現するDX企業による新サービス、分担とコラボで生まれるイノベーション

課題

市内企業は、アフターコロナやデジタル化への対応など多くの課題を抱えており、今後の企業経営に大きな影響を及ぼすことも懸念されます。

また、デジタル化に対応する技術を持った人材の不足も深刻な課題となっています。

対応

先端的研究機関や民間企業の積極的な参画を促すとともに、富山県立大学に設置される「DX教育研究センター」と連携し、起業促進や新たな市内企業の取組を支援します。

加えて社会実装に向けた実証の場となるよう環境を整えます。

想定される事業

- 市内企業のデジタル化を支援
- 多様な企業のマッチングによる企業支援とリモート雇用の環境づくり
- スマートグリッドの促進
- 社用車による通勤車の削減（コーポレート通勤車）



※カーボンニュートラル：人間活動によって排出された温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにすること
※カーシェアリング：特定の自動車を共同使用するサービス
※オンデマンド型交通：利用者の事前予約に応じ運行経路やスケジュールに合わせて運行する公共交通
※スマートグリッド：電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、最適化できる送電網

06 / 市役所のDX

新たなデジタル技術を活用し、業務効率化を図ることで、多様化するニーズへの対応や職員でなければできない業務に注力できる環境を整えるなど、住民サービスの向上に努めます。

また、国が策定した自治体DX推進計画に定める重点事項（P 1 参照）にも併せて取り組みます。

- 取組例**
- 窓口業務の自動化・24時間窓口の検討（電子申請手続の拡充、書かない窓口やキャッシュレスの検討、電子入札システムの導入 等）
 - 各種センサーを活用したIoTによるデータの利活用
 - AI・RPAの利用推進による業務効率化や市民サービスの向上
 - 地域課題の解決や経済の活性化に向けたオープンデータの拡充
 - デジタル化の急速な進展を的確に把握し、市民目線に立ち、積極的にデジタル技術活用に取り組む職員の育成

07 / DX推進に向けて

デジタルが苦手な方のために

DXの推進は、生活の利便性向上や生活様式の多様化に資するものであり、全ての人々が幸せや豊かさを実感でき、災害などにも迅速かつ的確に対応可能な安全・安心な暮らしの実現に寄与します。

また、こうしたメリットは、高齢者や障がいのある方にこそ大きな便益が得られるものです。

一方で、デジタル機器の操作に慣れていない方が取り残されることが無いよう、希望する全ての人々が、DXによるメリットを享受できる社会の形成を目指します。

- 取組例**
- 利用者がデジタル技術を利用していることを感じさせることなくサービスを利用できる環境の整備
 - 身近な場所で相談や学習を行える「デジタル活用支援員」の活用等

安心して参加できるように

デジタル技術の悪用防止対策をはじめ、個人情報保護、情報セキュリティ対策やプライバシー保護を通じて、安心して利用できる環境を確保します。

また、先進企業などの積極的な参加を促すとともに、信頼性・公平性の確保に努めます。

- 取組例**
- 産学官民の連携支援やモニタリングを担う組織の設置

※オープンデータ：誰もがインターネット等を通じて容易に利用できるように公開されたデータ

射水市DXビジョン

令和3年8月31日 策定・公表

射水市DX推進本部

(事務局：射水市 企画管理部 未来創造課)

〒939-0294 富山県射水市新開発4 1 0番地 1

TEL 0766-51-6614 Fax 0766-51-6668

E-mail dx@city.imizu.lg.jp